

慶応四年
明治元年

(二月)

慶応三(四)年戊辰正月元日 戌 晴。
先々式も相済、昼後より、私、参殿いたし候。夜、宿。

(二月) 二日 亥 晴。

朝ヨリ宅え帰り候。試筆スル。

(二月) 三日 子 晴。

昼後、殿様成らせられ候。御供帰りして、寿様、良姫様成らせられ候。御年酒いたし候。
此日七ツ時ヨリ伏見出火。皆々様、夕方御帰殿也。伏見火手、大変甚。徳川より発シ候大
変也。此夜半頃、北帛町出火。扱々驚、如何と存し候処、暫して火沈、先々安心いたし候。
此火も会仕業也。

*北(帛(ママ))町 *火沈(火鎮)

(二月) 四日 丑 晴。

鉦声近く聞え、扱々しもたりとそんし候処、伏見合戦、長藩大勝、伏見済て鳥羽戦争也。
此朝、私、参殿いたし候。御所、大敵重警衛也。此朝、黒谷会藩残盗為出、から鉄鉦発し
候。母さまも参殿致され候。御上、御姫さま方、皆々岩倉え御立退あらせられ候。母さま
も御供致され候。御上、殿様計也。女中千世滝さま、私二人也。留主番。市中大騒動、大
てい逃去候。

*鉦声(砲声) *しもたり(仕舞たり) *そんし(存じ) *残盗(残党) *鉄鉦
(鉄砲)

(二月) 五日 寅 晴。

戦争、追々得勝利、実にくうれしき事也。追々焼払、火益甚。

(二月) 六日 卯 晴。

此日、よき風脱計ニテ大悦。

*風脱(風説)

(二月) 七日 辰 晴。

七草御祝、[めて度](#)相濟候。毎夜通夜。
*めて度(目出度)

(二月) 八日 巳 晴。
(コノ日、記事ナシ)

(二月) 九日 午 晴。
一、大坂落城之由、承り候。

(二月) 十日 未 晴。
此朝、御姫さま方、岩倉より御帰殿あらせられ候。節分御祝も相濟候。

(二月) 十一日 申 晴。
此夜、陣羽織三枚、竜認ル。

(二月) 十二日 酉 晴。
父様、民部、織部、寅吉、大坂え下られ候積ニて出られ候処、沢主水正様、大坂御下りのよしニ付、御供奉いたしくれられ候様御頼みニ付、二条ニテ相待居られ候処、沢様延引相成、此夜二条ニテ宿致され候。私、此日、陣羽織二枚認ル。母さま、此朝二条え帰られ候。

(二月) 十三日 戌 晴、夜雨。
此日、帰殿致され候。私、此朝帰宅いたし候。昼後、私、[岡崎ふし田](#)え行、一宿。
*ふし田(伏田)

(二月) 十四日 亥 雨。
朝より一弦琴、三弦、十三弦などあわし、いろ／＼おもしろき事也。此八ツ時後、父さま御出にて、同道して帰殿いたし候。日暮也。此時、母さま参殿致居られ候。夜、泊られ候。

(二月) 十五日 子 晴。
一、朝、御祝もする／＼濟せられ候。昼後、母さまと同道にて帰り候。夕方ヨリ雪降。

(二月) 十六日 丑 晴。
一、朝、御殿より私呼に來、参上いたし候。殿様、御書上ル。夜、泊。

(二月) 十七日 寅 晴。
一、此日も殿様え御書上ル。

(二月) 十八日 卯 晴。

一、朝、一寸宅え画具取に帰り候。早々帰殿いたし候。水薬師上臈さま、幅枝円通寺来。殿様、御席書あらせられ候。実は此日亀井内山路左膳、神野務、御席書拝見相頼み候へとも、用事有候て二不参いたし、昼後八ツ時、殿様、三条殿えならせられ候。此朝、木津太兵衛来候。願泉寺、民部卿供して登り候。暫して民部卿子、参殿致され候。御所警衛二来られ候。色々大坂の咄し聞、実に心よき事也。

*幅枝(幡枝) *用事有候(て二(ママ))

(二月) 十九日 辰 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(二月) 廿日 巳 晴。

一、寿部院さま、良姫さま、昼時より獅々ヶ谷え法事二成らせられ候。御供迹見撰津、山本、北村、千代滝、私、きく、ひて、寅吉也。御セカキ濟、八ツ時也。夫ヨリ御弁当して、帰り七ツ時也。途中、吉田の辺より少々雨降候。此日、美濃より人二人来り、典膳、山本、脱★(艸十歩)いたし候。

*獅々ヶ谷(鹿ヶ谷) *セカキ(施餓鬼) *脱(★(艸十歩)(ママ))

(二月) 廿一日 午 雪、昼後止。

一、朝より大雪三寸計積り候。此日、私、二条え帰り候。

(二月) 廿二日 未 晴。

一、(以下、記述ナシ)

(二月) 廿三日 申 晴。

一、昼時より姉御殿え上り、夫ヨリ九条裏方え上り候。暫御咄して帰り、姉御殿にて一泊。

(二月) 廿四日 酉 晴。

一、朝、美飛脚来候。此日、沢主水守様、六年目にて長州ヨリ御帰京にて御成らせられ候。いろ／＼御咄しとも承り、実に／＼めつらしき事也。暫御咄し在候。御帰り遊し候。夕かたより蓮観院さま御年酒遊し候。

*沢主水守(沢主水正)

(二月) 廿五日 戌 晴。

一、朝、二条え帰り候。宮原御出、画セン紙一枚、扇面、絹地書画帖、取次持参致され候。

母さま、昼後ヨリ北野え参られ候。夕かた、帰られ候。

*画セン紙（画牋紙）

（二月）廿六日 亥

（コノ日、記事ナシ）

（二月）廿七日 子 雨。

一、御殿ヨリ新介使ニ来、明日大殿様御十三回忌御法事ニ付、今日ヨリ私参殿可致様、申来候。此時承り候へは、父様、石山権之佐様此度大坂急勅使ニ成られ、付添ニ強ク御頼遊し候テ、無抛御供致され候。私、此日参殿いたし候。石山様大坂えならせられ候ハ、廿六日御立也。

（二月）廿八日 丑

御客様、蓮様、石山中将様、竹御所上臈さま也。終日大困雑也。此朝、殿様、沢様え成らせられ候。御帰、又御廟え御参り也。父様、此日七ツ時、大坂より帰殿致され候。此日七ツ時、千世滝さま、沢山え御暇乞ニ行れ候。此夜、上原来候。早々帰り候。

*大困雑（大混雑） *沢山（沢様）

（二月）廿九日 寅

沢前主水守様、此度御勅使、今日立せられ候処、二、三日御延引ニ相成候也。

*沢前主水守（沢前主水正）

（二月）

二月朔 卯

朝、帰宅いたし候。終日、画法帖認候。

（二月）二日 辰 曇。

此日も画法帖認ル。昼後、父さま御出ニテ、明日、二条城此度太政官ニ相成候ニ付、天子行幸在らせられ候テ、御政事御聞あらせられ候よし也。明朝御上御拝見ニ成らせられ候まゝ、用意可致様、申居られ候。夫ヨリ宅洒掃いたし候。

（二月）三日 巳 晴。

朝辰刻、御出御。蓮様、殿様、よし姫（様）成らせられ候。二条通薬店え成らせられ候。私、御供いたし候。行幸拝見いたし候。御上、即御帰殿也。殿様、沢様え御見立ニ成らせ

られ候。此日、**沢前主水**様正勅使、**主水**様副使ニテ、長崎成らせられ候。母さま、昼後六条へ行れ候。七ツ時、帰宅。**御還行**、又々拝見いたし候。黄昏也。此夜、竹の子来、宿いたし候。

* 沢前主水守 (沢前主水正) * 主水守 (主水正) * 御還行 (御還幸)

(二月) 四日 午 晴。

私、まけニテ少々不快。画不認、終日読書。昼時、卯野善三郎、市橋虎三郎来。即帰ル。昼後、母さま処々稲荷さまえ参られ候テ、御殿え上られ候。夕方、民部一寸来候。即帰り候。私、夜読書。此日、岩倉市来ル。夫ヨリ六条へ行候也。夜二更迄読書。

(二月) 五日 未 雨。

此日も未認画。青木恒三郎、竹の子稽古ニ来候。九条殿より使来。岩倉市女来。暫して帰り候。夕、宮先生来られ候。暫咄して帰られ候。夜、読書、二更迄。

(二月) 六日 申 雨、八ツ時より晴。

恒之助、竹の子来り候。扇面認ル。七ツ時、母さま御殿より帰られ候。夜、読書。竹の子、夜宿。

(二月) 七日 酉 雨。

朝、恒之助来り候。四ツ時、典膳、兵部、高島宗左衛門来り候。右三人、昨夜帰殿いたし候也。私、昼後、九条殿え稽古ニ上り候。七ツ時帰宅。此日、父さまも来られ候。日暮、皆々帰殿致され候。夜、読書。

(二月) 八日 戌 雨。

昼後、参殿いたし候。此夕、石山権之佐さま成らせられ候。色々珍談、四更迄。

(二月) 九日 亥 晴。

昼後、石山様、御帰り遊し候。殿様御手習上候。

(二月) 十日 子 雨。

朝ヨリ殿様御手習上候。昼後、濃州人参殿いたし候。御祝酒、御対面。夫ヨリ殿様御席書遊し候。私もいたし候。七ツ時、皆々帰殿いたし候。私、此夜、和哥いたし候。

(二月) 十一日 丑 雨。

殿様御手習上候。此夜、和哥いたし候。

(二月) 十二日 寅 雨。

朝ヨリ殿様絹地額面御認遊し候。此夜、和哥いたし候。

(二月) 十三日 卯 晴、七ツ時より雨。

朝、二条え帰り候。昼後、九条殿え上り、御稽古いたし、七ツ時後、帰り候。此夜、日本外史八、一冊読、九、一冊、十、半程迄読、五更二臥。

(二月) 十四日 辰 雨。

杉山の法帖認ル。此日、父さま来られ候。七ツ時、勝蔵子来。穂波殿此度関東征伐ニ付御旗奉行ニ成らせられ候ニ付、十五日御出立、御供の義ニ付、民部来。又、中務奥田来。勝蔵子ハ早々帰り、跡みなく、私も同道ニテ帰殿いたし候。中務奥田、途中より穂波殿え行候。私、御殿ニテ一宿。

*義(儀)

(二月) 十五日 巳 晴、寒。

朝、中務奥田、此度穂波殿え御殿より御借ニ相成、朝御四畳半ニテ離別の御盃下され候。殿様、ひとく別を御惜み遊し、一統流涙いたし候。先々無事出立いたし候。有栖川宮様大將ニテ東え成らせられ候。此朝、殿様、長州行の絹地額面二枚御認遊し候。昼前時ヨリ私、きく、ひて、頼二、長七、岩倉え出し物に行候。七ツ時、帰殿いたし候。此夕方ヨリ寿様、中院様え成らせられ候。私、夜、外史十読。

*御借(御貸)

(二月) 十六日 午 晴。

朝ヨリ殿様御書遊し候。此夜、詩作する。

(二月) 十七日 未 雨、俵降。

此日も御書遊し候。昼後、母さま、私迎ひに来られ候。又一宿。

*俵(雹)

(二月) 十八日 申 雨。

朝、母さまト同道にて帰宅いたし候。此時、濃州福島清記、小島三郎来。明日帰国の暇乞に来。蜂屋柿一箱くれられ候。昼後より九条殿え上り候。稽古いたし候。夕かた、帰宅。夜、宮原きた女、子供衆、六角さまえ参詣いたし帰、縫物。四更二臥。二更ニ典膳来、早々帰り候。

(二月) 十九日 酉 晴。

法帖認ル。昼後、父さま来られ候。宮原先生、吉田子来。此日より御殿え御稽古に上られ候様に漸相成候。暫咄して、右兩人参殿致され候。此朝、母さま参殿致され、此時帰られ候。北村子来、七ツ時迄居られ候。父様ト同道にて帰られ候。日暮て後、民部、式部、父さま向ひに來り候。早々帰り候。此七ツ時、杉山栄来、暫して帰られ候。
*向ひに(迎ひに)

(二月) 廿日 戌 雨。

私、昼後より対山方へ行候つもり処、父さま大坂行ニ付、母さま同道のよし申来、又々止にいたし候。此日、典膳來り候。八ツ時後、此日父さま大坂行の御つもりにて母さま誘に寄られ候へとも、又々延引ニ相成候。日暮て父さま参殿致され候。典膳、宿、夜、詩作。四更ニ臥。此日、ヒゲ翁來り候。

(二月) 廿一日 亥 朝細雨、昼後晴。

画帖、扇面認ル。又画帖認ル。昼後、寺田りえ女、外に幸治郎家内、彦兵衛家内と三人連にて來られ候。いろく久々に大變の咄いたし候。此日、千世滝さま、御出也。八ツ時後、三人帰られ候。母さま同道にて六条え参詣致され候。千世滝さま、暫して迎ひ來、帰殿致され候。夕方、母さま帰られ候。此日、大坂井上氏使、松魚十本携て來り候。孫兵衛子、上京致され候よし也。母さま、亦御殿え上られ候て一宿。

(二月) 廿二日 子 七ツ時より雨。

朝、母さま帰宅致され候。夫より六条りえ女の宿屋え尋ねに行れ候處、留主中也。早々帰られ候。私、昼後より宮原氏より頼みの絹地持参して対山方へ行候處、主人留主ニて早々帰り、途中にて対山ニ出逢、又々引帰り候。いろく画の咄して一酒出、画卷見せられ候。沈石田花卉、觀乙花卉二巻かりて帰り候。日暮也。参殿して、此夜吉田参殿致され、**講釈**聞。一更後、濟、吉田氏、民部、兵部子ト共に吉田送り、夫ヨリ二条え帰り候。民、兵、早速帰殿致され候。此時、りえ女來居り、一宿致され候。

*講釈(講釈)

(二月) 廿三日 丑 晴。

早朝より母さま、りえ女ト共に下坂致され候。私、昼時より姉御殿え上り、暫して九条殿え上り、稽古いたし候。夕飯して、日暮後帰殿いたし候。夜一宿ス。

(二月) 廿四日 寅 晴。

朝、帰宅いたし写し物する。七ツ時、父さま來られ候。明日より美濃え行れ候由申居られ候。夕方、帰られ候。夫より後、典膳、民部來。絹地**落歡**してもらいに來り候。暫して帰り候。

*落歎（落款）

（二月）廿五日 卯 晴。

朝より殿様御法帖認ル。七ツ時前より参殿いたし候。夜、宮原上られ候て稽古致され候。
講訳聞。

*講訳（講釈）

（二月）廿六日 辰 晴。

朝ヨリ殿様御稽古上て、八ツ時帰宅いたし候。此日、民部、主税来、夕飯して帰り候。

（二月）廿七日 巳 晴。

朝、青常来、稽古致候。昼後、私、竹の、刑部連て四条橋吉人形調に行、夫ヨリ岡崎伏田
え行候処、ひとく留られ花卉いろく到来シテ形部子先帰殿いたし候。私、竹の子一宿す
る。

*形部子（刑部子）

（二月）廿八日 午 曇亦晴。

朝飯して早々二条え帰り候。昼後、九条殿え上り候。稽古致、七ツ時、姉御殿え帰り候。
一宿。此日、異人六ヶ国入京也。実にく可歎息。日々見る事聞事いやなく事計、実に
く山林え入たく存候也。

（二月）廿九日 未 雨。

朝ヨリ殿様御書御認遊し、昼後、私二条え帰り候。裾模様下図する。

（二月）三十日 申 晴。寒風。

朝ヨリ下図する。此日、異人参朝いたし候。最日ノ御門迄騎馬ニテ右御門ヨリ入、紫震殿
え上り樂を奏して迎へられ候。実にく見る人聞人、日本のをとりへたる事なかぬ者な
く候也。私事は是聞ヨリ流涙如雨、実にくうらみたる人は三条殿はしめ五郷也。私、夕
方ヨリ姉御殿え上り候。皆々右の咄し計ニテ歎居り候也。此夜、講訳日ニテ宮原一更後ニ
来られ候て一宿致され候。

昨日、江州八幡文来。かつ女世話の義申来り候。

*最（尤） *紫震殿（紫宸殿） *五郷（五卿） *講訳（講釈） *義（儀）

（三月）

三月朔 酉 晴。寒。

朝、先生講訳聞。済て宮先生帰られ候。私、昼前二条え帰り候。下凶認ル。此日、大坂辻氏より久の女遺物紋附かたひら、和歌明題集二品送りくれられ候。又富田炭屋来、羊羹一棹くれ候。

*講訳（講釈） *かたひら（帷子）

（三月）二日 戌 晴。

二月三十日、異人参朝の節、三条綱手ニテ異人切られ候由承り候。林田某、外二僧老、異人通行いたし候処、異人先大将ト思ふ者馬切付落馬する処、切殺。薩人警衛いたし居り候。馬ヨリ下テ、扱林田え切カ、リ候処、不叶、薩人面切られ候テあを向にたをれ候。異人即死老、手をいの者九人也。林田、即自殺スル処、土州人是も戎狄警衛いたし居り、此者林田の首かき切、即刻戎狄え差出し、外の僧生取に相成候。林田辞世有、

さきかけて散や大和の桜花よしやうき世に名ハ立すとも

実にくはこそ日本の人也。誰もくは聞候て、まつく胸治り候。いろく十五年以來ヨリいろく忠臣も有り候へとも、私思、先々、此者二人忠臣の第一と仰きく候。我も故主人えの申訳、せめての事に一人たりとも異人切付致と心計思ひ候へとも、嗚呼かなしい哉、不及林田幾千万、可歎可歎。

*綱手（縄手） *手をい（手負い）

（三月）三日 亥 雨。

朝、参殿いたし候。此日、寿様、良様、中院様え御初節句にて成らせられ候。私、九条殿稽古日ニテ参殿いたし候筈ながら、御殿ニてひとく止られ不参いたし候。終日御雛さまにて遊ぶ。夕方、良様御帰殿あらせられ候。寿様御泊り也。此日、又異人参朝いたし候。

（三月）四日 子 雨。

終日遊ぶ。

（三月）五日 丑 晴。

朝、一寸二条え帰り、亦早々参殿いたし候。殿様御書の御用ニテ此夜も一宿。夜、宮先生参殿致され、講訳聞。一宿致され候。此日、対山方え御祝義、蜂屋柿遣し候。画卷二組返し候。

*講訳（講釈） *御祝義（御祝儀）

（三月）六日 寅

朝、宮原帰られ候。私、夫より帰宅致候。絹地横物花卉一幅（認）ル。此夜ヨリ宮原塾え入候也。一更後二宅え帰り候。五更迄夜ナへ縫物スル。此朝ヨリ殿様岩倉え成らせられ候。

(三月) 七日 卯 大霰降。至寒し。

朝、御殿ヨリ呼来、早々参殿いたし候。御書御用也。終日殿様御書御揮遊し候。夜、吉田さま参殿いたされ候。講訳聞。此時、父さま濃州ヨリ帰殿致され候。一更後ニ吉田さま帰られ候。

*講訳(講釈)

(三月) 八日 辰 晴、亦一寸降。

昼後、九条殿え上り候。御稽古済て、日暮帰宅いたし候。此日、御殿え向て木津母さまヨリ文来り候。此夜、明日のこしらへにていそかしく候。

*こしらへ(拵へ) *いそかしく(忙しく)

(三月) 九日 巳 晴。

禁中様、二条え行幸あらせられ候。朝五ツ時也。此時、式部ノ外ニ信州之人同道ニテ来、帛紗頼に参り候。早速認遣し候。右両人早々帰り候。此日八ツ時後ニ蓮様、良姫様成らせられ候。御供父様、千世滝さま、きく、ひて、はる、みつ、兵部、北村、下部長七、喜助也。いろくおあいそう物なぞ相出し候。日暮前御還幸拝見ニ成らせられ候て御帰り遊し、暫して御客さま御帰殿也。此朝、私宅掃事して相済候処、座敷のエンに日月御旗落て御坐候。最、紙ニテこしらへ、子供の持遊ひの也。是真吉兆と存、祝致し候。此夜、典膳、兵部子、此御旗到来ニ来り候。御殿ニて御祭りあらせられ候。

*掃事(掃除) *エン(縁) *最(尤) *こしらへ(拵へ)

(三月) 十日 午 雨。

昼後、千世滝さま、きく、ゆき来、終日遊ぶ。夕方、長七迎ひニ来、私も同道にて帰殿いたし候。夜、吉田さま参殿にて講訳聞。

*講訳(講釈)

(三月) 十一日 未 晴。

朝、私帰宅のつもりの方、良様の召し物染上りニ相成候故、弥十三日お十三参りと相治定いたし、私も御供、夫ニ付いろく御用多候て、召物仕立ル。此夜一宿。

(三月) 十二日 申 晴。

朝ヨリ私の白袷仕立ル。此夜、御こしらへにて徹夜いたし候。

*こしらへ(拵へ)

(三月) 十三日 酉 晴、亦雨。

明六ツ時、御出門也。蓮様、良様、御供千世滝さま、私、きく、ゆき、ひて、はる、父様、北村、式部、主税、下部寅吉、長七、喜助也。四ツ時、嵯峨虚空蔵さまえ詣して洗心亭へ行。此別家ニテ御休足也。はや昼して御釈迦さまえ詣して此御寺え御立寄、御休足あらせられ候処、サツト雨降。晴て早々御立也。西ノ京え成られられ候途中ニテ雨。アキ家ニテ暫雨やとりあらせられ候。又晴て西ノ京阿弥陀寺え成らせられて暫御遊ひ遊し候て、七ツ時御立也。日暮、御帰殿也。此日、江州かつ女、勘と同道ニて来り候。

*成ら(れ(ママ))られ *アキ家(空き家) *雨やとり(雨舎り)

(三月) 十四日 戌 晴。

朝、式部女参殿いたし画頼みに参り候。夫ヨリ私帰宅致し候、かつ女連て也。昼後、北村子来り候。夜四更迄認物、式部女より頼みの五景の図、帛紗二枚也。

(三月) 十五日 亥 晴。

朝、式部女来り候。右の画相渡し候。昼後、九条殿え参り、お稽古いたし候。日暮参殿いたし、夜宮先生参殿ニて講釈聞。

*講釈(講釈)

(三月) 十六日 子 晴。

朝、私帰宅いたし候、かつ女連て也。蓮観院様、今日参朝のお土産の扇二対認ル。喜助取ニ来り候。昼時、かつ女連て参殿いたし候。夜一宿。

(三月) 十七日 丑 晴。

朝ヨリ殿様え御書上ル。此日四ツ時、木津重助来、母さま帰られ候由にて大谷辺え行れ、早速二条え帰られ候様子ニテ、早々私帰り候。母さま、七ツ時、林治郎右衛門、足袋屋しも、か々やさい女四人連て来られ候。此夜一宿。

(三月) 十八日 寅 晴。

早朝、帰坂いたし候。私、八ツ時より九条殿え上り候つもりにて行候て所勞にて行かね、姉御殿迄漸参り、九条殿相断候。私、姉御殿にて一宿。八ツ時ヨリ雨降、夜ニ至て大雨也。

(三月) 十九日 卯 晴。

朝ヨリ七ツ時迄殿様御書上ケ候。夫ヨリ帰宅いたし候。父さま御出也。夕方、帰られ候。宮原先生夕方御出にて、谷ノ娘画の入門いたし(度)候由にて頼みに参られ候。

(三月) 廿日 辰 雨。

朝、谷赫の入門いたし候。夕方ヨリ私参殿いたし候。大風雨。明日、禁中様御親征大坂行

幸あらせられ候よしなから、天下一統行幸不承知にて、歎／＼候者計也。とうそ／＼御止ならはといのり／＼候也。明日御出立ながら、御道筋しかと不分、何処え参り候ても分らぬと申人計也。私、此夜一宿いたし候。
*よし(由) *いのり(祈り)

(三月) 廿一日 巳 晴。

早朝、殿様、よし姫様、蓮様、行幸拝見に成らせられ候。御次皆々、私も御供いたし候て、三条永楽屋え向て参り候。朝五ツ時、行幸あらせられて、内侍所様も御出ニ相成候。下々に至迄泣計事ニ候也。昼時、御通り済せられ候。皆々御帰殿也。

(三月) 廿二日 午

写し物いたし候。夕方、参殿いたし候。講訊聞。一宿。

*講訊(講釈)

(三月) 廿三日 未 雨。

朝、不言え帰り候。昼後、九条殿え上り、稽古済て夕方帰り候。

(三月) 廿四日 申

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 廿五日 酉

持賢門院像認ル。

*持賢門院像(待賢門院像)

(三月) 廿六日 戌

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 廿七日 亥

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 廿八日 子 雨。

朝ヨリ扇子十本認ル。蓮さまヨリの扇子二本認ル。昼後、九条殿え上り候。夕方、帰り候。此日、風早殿、宮原方え成らせられ候て一更ニ帰られ候。此夜、宮原え行、塾ニテ徹夜いたし候。

(三月) 十(廿) 九日 丑

朝ヨリ扇子十本認ル。夜、宮原へ行、[講釈](#)聞。一更後、帰り候。
*講釈（講釈）

（三月）晦日 寅 晴。
昼前ヨリ勝女連て参殿いたし、昼飯戴候て、対山方へ行。書画帖、頼置候いろ／＼画見る。
いろ／＼珍談有て、八ッ後迄遊ふ。夫ヨリ岡崎水島へ行、一寸用事済て、[ふし田](#)へ行。主人留主中にて、ひとく留られ候て一宿する。
*ふし田（伏田）

四月朔 卯 晴。
朝飯して帰り候。参殿いたし候。終日遊ふ。又一宿。

（四月）二日 辰 夕方一寸雨。
朝、勝女連て帰り候。夕方ヨリ参殿いたし候。[講釈](#)聞。吉田さま送りかてら帰り候。
*講釈（講釈）

（四月）三日 巳 雨。
昼後、九条殿稽古日にて、夕方迄。夕飯して帰り候。

（四月）四日 午 雨。
昼後ヨリ勝女、岩尾、私、三人連ニテ参殿いたし候。此日、殿様、良姫様御延生日ニテ御祝也。勝女、岩尾、七ッ時帰り候。私一宿する。
*御延生日（御誕生日）

（四月）五日 未
朝、帰宅いたし候。此日、母さま御殿え上られ候て一宿。夫ゆへ[講釈](#)不聞。
*講釈（講釈）

（四月）六日 申
此日、写し物終日する。

（四月）七日 酉
此日、写し物終日する。絹地翌物夏山雨余水墨画認ル。

（四月）八日 戌

朝ヨリ色紙二枚認。昼後、父さま御出也。明日大坂行ニテ、私も参るはついたし候。八ツ後より九条殿え稽古に上り、七ツ後、姉御殿え寄、大坂行相談いたし候処、皆々止る様仰せられて、相止候也。

*はつ(筈)

(四月) 九日 亥 晴。

朝、父さま、寅吉連て大坂え下られ候。此時、私宅え御寄也。昼後より殿様成らせられ候。御供典膳、民部、兵部、主税、刑部、青木恒之助、千世滝さま、きく、ゆき、下部長七。終日酒肴にておもしろき事也。此日、私延生日ニテ祝いたし候。殿様、七ツ時前、御帰り也。千世さま、外女中跡残、日暮て兵部、民部子迎に來られ候て、又々遊ぶ。一更、北村子來られ候て、二更ニ皆々歸られ候。

*延生日(誕生日) *跡(後)

(四月) 十日 子 晴。

全紙二枚認ル。

(四月) 十一日 丑 雨。

朝、全紙落款、半切二枚認ル。此日、御殿ヨリ呼來候て七ツ時より参殿いたし候。典膳子、兵部子來候て同道也。夕、母さま、勝女連て參られ候。皆一宿。

(四月) 十二日 寅 晴。

朝、帰宅いたし候。絹地墨面具足認ル。日暮、参殿いたし候。吉田さま御出ニテ講訳聞。一更後、吉田さま、私、民部、主税共に歸り候。吉田さま送り候て、二条より兩人帰殿致され候。

*講訳(講釈)

(四月) 十三日 卯 晴。

朝、典膳、兵部子來られ候。昼時より私参殿いたし、此時、蓮さま、良さま、御寺御所え薩州砂持振々しく候故、見物ニ成らせられ候。私、御供いたし候。外、千世滝さま、ひて、みつ、北村、山田、高橋、喜助也。御九献、御すもし、夕飯出。御門前、仲々賑々しき事也。暮六ツ時頃、御帰殿あらせられ候。私、姉御殿ニテ一宿。

*振々しく(賑々しく)

(四月) 十四日 辰

朝、帰宅。終日摸写。夜、宮原え行、読書。

(四月) 十五日 巳 晴。

朝、参殿。此日、蓮様、良様、勝軍地藏え遊行。昼後、出門。供千代さま、私、菊、光、春、山本、山田、北村、長七、喜助也。処々新緑、藤なとかゝり、緑淡濃真堪画、薇折山々穿。斜日頃、御帰殿也。夜、吉田氏来、[講訳聞](#)。私一宿。

*講訳(講釈)

(四月) 十六日 晴 午

朝、帰宅。昼後、水島柳女、みつ、嫁、三人来、暫して帰り候。八ツ時より勝女、竹の女共に[岡崎え](#)、伏田え行。粉本持参いたし候。匿名哥相頼候。日暮、帰宅。夜、宮原塾え行、読書。二更ニ帰り、詩作。五更ニ臥。此日、楚山よりの画帖来。

*岡崎(え)(ママ)

(四月) 十七日 未 晴。

昼後、九条殿え上り、稽古いたし、七ツ時後、姉御殿え行。夜、吉田氏来、[講訳聞](#)。吉田氏送人、民部、兵部、主税、私也。私宅ニテ暫して三人帰殿いたし候。夜学徹夜。

*講訳(講釈)

(四月) 十八日 申 晴。

朝、典膳来。由緒書認ル。昼後、山本子来。画帖認、短冊認ル。母さま、清水え参られ候。夕方、帰宅。私、夜、宮塾え行、帰り、徹夜。

(四月) 十九日 酉 晴。

絹地具足落製、短冊十五枚認。此日、式部女、画帖請取に來候。則、四季山水也。母さま、昼後参殿して不帰也。

(四月) 廿日 戌 晴。

少々不快、臥。昼後、短冊四枚認。夕方、参殿いたし候途中、吉田氏逢、同道、[講訳聞](#)。吉田氏帰られ候。四更頃に臥。母さま、八ツ時後御帰宅。此日、至而暑し。

*講訳(講釈)

(四月) 廿一日 亥 晴。

昼前、帰宅。暑さきひしく、一重一枚ニテまた暑し。夕方より大雨。此日、大坂父さまへ一重物、文出す。此日朝、伊藤氏来られ候へとも留主中ニテ、昼後、安来、長々咄して帰られ候。旅宿、岡崎惣会所也。

(四月) 廿二日 子 雨。

昼後より九条殿え上り、稽古して、夕方、姉御殿え上り一宿。此日、昨日に替り到而さむく、又綿入と着替候也。

(四月) 廿三日 丑 晴。
朝、帰宅。短冊認ル。

(四月) 廿四日 寅 晴。
朝ヨリ短冊認、皆々落歎スル。昼後、参殿いたし候。かつ女、着物なく、こしらへに参り候。漸大坂屋、夕方持参いたし候。私一宿する。

*落歎(落款) *こしらへ(拵へ)

(四月) 廿五日 卯 晴。
朝四ツ時、帰宅。着物たち物いたし、夫ヨリ仕立ル。昼時ヨリかつ女連て式部方え行、暫して日根野え行、いろく咄し、七ツ時迄遊ぶ。夫ヨリ岡崎ふし田え行、一宿する。此日、母さま参殿致され候。

*たち物(裁ち物) *ふし田(伏田)

(四月) 廿六日 辰 夕方ヨリ雨、大雨。
昼飯して帰宅いたし候。昼後、山本氏来、大坂行文持参致され候。此時、長七、母さま、私呼びに来候。典膳、病氣あしく候。皆々参殿いたし候。夕方、民部、主税子、かつ女迎ひに行候。皆々一宿。

(四月) 廿七日 巳 雨。
朝、かつ女連て帰宅。八ツ時ヨリ姉御殿え上り、早々九条殿え上り、御稽古して、夕方姉御殿え上り候。母さま、七ツ時帰宅致され候。私一宿。

(四月) 廿八日 午 晴。
殿様、少々御所勞ニテ御ときいたし候。此日、父さまより文来候。私一宿。

(四月) 廿九日 未 晴。
朝、帰宅。

(閏四月)

閏四月朔 申 晴。

絹地五節句画。徹夜、詩作。此日、父さま大坂より帰殿。

(閏四月) 二日 酉 晴。

五節句落製。昼後、父さま御出也。八ツ時より九条殿え上り、稽古。日暮、姉御殿え帰り候。吉田氏参殿、[講釈聞](#)。私一宿。

*講釈(講釈)

(閏四月) 三日 戌 晴。

朝、帰宅、絹地四季花卉画。夜、宮原え行、[講釈聞](#)、帰り、読書。夜半頃大雨、真におそろしき事也。

*講釈(講釈)

(閏四月) 四日 亥 晴。

昼後、姉御殿より呼に來、参殿いたし候。殿様、御書御稽古也。夜宿、読書。

(閏四月) 五日 子 晴。

朝、一寸帰宅。絹地持参する。亦参殿いたし候。殿様、御認物あそはし候。夜、吉田氏來、[講釈聞](#)。済て吉田氏送り、私帰宅する。民部、兵部、主税、式部送りくられ候。夜、読書。

*講釈(講釈)

(閏四月) 六日 丑

(コノ日、記事ナシ)

(閏四月) 七日 寅 晴。

昼後より九条殿え上り、夕方稽古済て姉御殿え帰り候。夜、吉田先生御出にて[講釈聞](#)。済て吉さま帰られ候。

*講釈(講釈)

(閏四月) 八日 卯 晴。

朝、伏田秀嶺、あさ女、不言菴え來られ候よし申來り候。夫ヨリ私、二条え帰り候。昼飯して姉御殿え皆々同道して上り候。此日、御上、大坂より御還幸あられ候故也。御昼、常納言ニテ東本願寺東天え成らせられ候て御帰りのよし也。いつれ七ツ時のつもり、正午半御着ニテ、早々日御門迄拝見に参り候。済て秀嶺子計帰られ候。あさ女、一宿致され候。

(閏四月) 九日 辰 雨。

此日、雨中ニテ、あさ女一宿。此日、江州勘五郎、二条え来り候也。

(閏四月) 十日 巳 晴。

昼飯して、あさ女ト共に二条え帰り候処、秀嶺子来て居られ候。暫して八ツ時、兩人共帰られ候。私亦姉御殿え上り候。夕、宮先生御出ニテ講訳聞。済て帰られ候。

*講訳(講釈)

(閏四月) 十一日 午 晴。

此日、朝より殿様、方々え成らせられ候ニテ、私、昼時ヨリ二条え帰り候。八ツ時ヨリ雨ニテ、私、不帰殿候。此日、結城筑後守来、久しく咄し居り候。

(閏四月) 十二日 未 晴。

此日、私、画の道具、手元の物、皆々御殿え持参いたし候。暫、殿様御しこみ申くれとの事故参り候。昼後、姉御殿え帰り候。八ツ時ヨリ九条殿え御稽古に上り候。此日、宗対馬守参殿いたし候。私、夕方、帰殿いたし候。夜、吉田子来、講訳聞。済て帰られ候。

*講訳(講釈)

(閏四月) 十三日 申 晴。

終日御稽(古)いたし候。

(閏四月) 十四日 酉

朝ヨリ昼迄読書。昼、御書。

(閏四月) 十五日 戌 入梅 雨。

朝ヨリ昼迄読書。昼後、御書。此夜、宮先生不参、依講訳休。

*講訳(講釈)

(閏四月) 十六日 亥 晴。

朝ヨリ殿様、対州屋敷え成らせられ、夫ヨリ西ノ京御別館え成らせられ候。七ツ時、御還殿也。

(閏四月) 十七日 子 晴。

朝ヨリ至昼、読書。昼後、御書。此夜、吉田来、講訳聞。済て帰られ候。此日、山田式部親、姉病氣ニ付文来、昼時、濃州え出足いたし候。高橋主税子、八ツ時他行して不帰也。皆々大心配、先々濃州え帰り候様子也。

*講訳(講釈)

(閏四月) 十八日 丑 雨。
朝ヨリ読書、至昼。

(閏四月) 十九日 寅 晴。
朝ヨリ読書、至昼。昼後、御書。

(閏四月) 廿日 卯 大雨。
朝ヨリ扇子十本認ル。夫ヨリ御書。夜三更。

(閏四月) 廿一日 辰 晴、夜雨。
昼後、御廟え参詣いたし、帰り、蓮さまより御頼みの襖二枚認ル。松竹梅図也。夜、詩作。

(閏四月) 廿二日 巳 晴、八ツ時、雨。

朝ヨリ至昼、読書。昼より至八ツ時、御書。夫ヨリ私、九条殿え稽古ニ上り、七ツ時帰殿いたし候。夕、吉田氏来、**講訳**。済て帰られ候。

*講訳(講釈)

(閏四月) 廿三日 午 晴。

従朝至昼、読書。従昼至八ツ時、御書。夜四更迄詩作。此時、殿様御不快ニテ心配いたし候。亦良姫様も同様御事。徹夜いたし候。存外**御治りあせられ候**。

*御治りあせられ(御治りあせられ)

(閏四月) 廿四日 未 晴。

終日放棄。

(閏四月) 廿五日 申 大雨。

写し物いたし候。昼、御書、八ツ時にいたる。夕、宮原先生御出、匿名詩、同書添削願故ニ放稽古、帰られ候。五更二臥。詩作。

(閏四月) 廿六日 酉 雨。

昼後御書、八ツ時後ニ至。夜、画書。四更二臥。

(閏四月) 廿七日 戌 雨。

昼後、**安堂**対馬守参殿いたし候。殿様、御席書あらせられ候。私も書画。七ツ時後ニ帰り候。

*安堂(安藤)

(閏四月廿八日、廿九日、日記ナシ)

(五月)

(五月一日〜四日、日記ナシ)

五月(五日) 端午日 辛巳 雨。

朝、石山三位様成らせられ、殿様御同道ニテ御参賀有らせられ候。暫して御帰殿也。御昼、御祝済され候。

(五月) 六日 壬午 雨。

終日放業。七ツ時、せき女来、一更迄三曲。

(五月) 七日 癸未 晴。

朝ヨリ昼ニ至、読書。八ツ時より九条殿え行、稽古、七ツ時後帰殿いたし候。

(五月) 八日 甲申

殿様御所勞ニテ、終日放業。夜、輪講回読。

(五月) 九日 乙酉 晴。

殿様、此日も同断故放業。夜、輪講回読、至三更。

(五月) 十日 丙戌 晴。

此日、昼後、俄、沢藤姫さま、たゞ姫さま、元丸さま成らせられ候。終日放業。夕、宮原先生御出、**講訳**聞、一更後二帰られ候。又輪講、三更ニいたる。御客さま此夜一泊也。

*俄(にはかに) *講訳(講釈)

(五月) 十一日 丁亥 雨。

朝ヨリ昼迄御読書、昼ヨリ八ツ迄御書。御客さま又一宿。夜、輪講ス。

(五月) 十二日 戊子 雨。

朝ヨリ至昼、御読書、從昼至八ツ時、御書。此日、九条殿稽古日不参。御客さま又一宿。此夜、亀井行の扇二十本認ル。

(五月) 十三日 己丑 雨。

従朝至昼、御読書、従昼八ツ時迄御書。夫ヨリ石山権之助様より御頼みの袋棚ルリ鳥、海棠四枚、地袋秋草花認ル。夜、輪講。御客さままた滞留。

(五月) 十四日 庚寅 雨。

従朝至昼、御読書、従昼至八ツ時二至、御書。御客さま、いまた滞留。藤姫さま、元丸さま、八ツ時後、帰られ候。

*八ツ時二(至(衍))

(五月) 十五日 辛卯 雨。

読書、御書、朝ヨリ八ツ時迄。客滞留。

(五月) 十六日 壬辰 雨始テ晴ル。八ツ時頃亦雨、暫して晴ル。

朝ヨリ八ツ時迄読書、御書。七ツ時頃、沢様御迎ひ来、忠姫さま漸御帰り遊し候。

(五月) 十七日 癸巳 雨。

朝ヨリ八ツ時迄御稽古也。此日、九条殿稽古日なから、洪水ニテ不参いたし候。

(五月) 十八日 甲午 雨。

朝ヨリ八ツ時迄読書、御書。八ツ時後より私事、九条殿え参り候。此途中洪水ニテ渡りて参り候。

(五月) 十九日 乙未

朝より八ツ時にいたる迄読書、御書。

(五月) 廿日 丙申

此日、御日からニテ大いそかしく候。四更二臥。夕、宮原先生御出、講訳聞、夜、一泊致され候。

*いそかしく(忙しく) *講訳(講釈)

(五月) 廿一日 丁酉 晴。

昼後より、寿部院様、よし姫様、獅々ヶ谷え成らせられ候。御供父さま、兵部、北村、千世滝、きく、ひて、下部一人也。七ツ時、御帰殿也。此朝、宮原先生帰られ候。此日、かつ女病氣ニて呼に來。夕方、二条え行、一宿する。

*獅々ヶ谷(鹿ヶ谷)

(五月) 廿二日 戊戌 晴。

朝、竹の女、赫の子稽古いたし候。八ツ時後より九条殿へ行、稽古して、夕方帰殿いたし候。亦かつ女あしく候て呼二来。夜、二条へ行、一宿する。

(五月) 廿四日 己亥

朝四ツ時、帰殿いたし候。御書。

(五月) 廿五日 庚子 晴。

朝ヨリ八ツ時迄読書、御書。

(五月) 廿六日 辛丑 晴。

朝ヨリ四条芝居へ行候。寿さま、父さま、兵部、私也。七ツ時、果ル。二条え寄。此日、**壬主様**成らせられ呼二来、早々御帰殿あらせられ候処、**壬主様**御帰り也。

*壬主様(壬生様) *壬主様(壬生様)

(五月) 廿七日 壬寅 晴。

此日、楚山先生より便り有。

朝ヨリ(リ)八ツ時迄御読書、御書也。夫ヨリ半切二枚山水認ル。此日、住吉人參殿いたし、承り候へは、此度洪水、大和川切レ、安立町、住吉尽流レ候。往古ヨリなき洪水也。夫ヨリ大坂辻氏、木津唯専寺え文さし出し候。此日、九条殿不参。又木津石田より文来、津堂辺洪水ニテ七ヶ村流レ候。石田寛三郎一家残り候也。おそろしき事也。

(五月) 廿八日 癸卯 晴。

朝ヨリ昼後、御読書。七ツ時より殿様岩倉え成らせられ候。御供典膳、民部、刑部也。此夜、御一宿。

(五月) 廿九日 甲辰 晴。

朝ヨリ画法帖認ル。七ツ時、殿様御還御也。此日、江州八幡え文出す。

(五月) 三十日 乙巳 土用 晴。

朝ヨリ絹地画帖物、唐紙画帖物認ル。楚山先生え文出。昼後、御書也。夕、十八史略輪講する。

(六月)

五(六)月朔日 午 晴。

朝ヨリ画帖認ル。夕、宮先生御出、[講訳聞](#)。先生、此夜御宿。

*講訳(講釈)

(六月) 二日 未 晴、一寸七ツ時夕立。

朝ヨリ二条宅え帰り、竹の女稽古いたし候。八ツ時ヨリ[九条殿](#)り上り、御稽古して七ツ時後ニ帰り候。夜、輪講スル。

*九条殿り(九条殿え)

(六月) 三日 申 晴。

殿様、朝ヨリ御出門、上加茂御馬献上ニて見物え成らせられ候。八ツ時後ニ御帰られ候。父さま、夫ヨリ二条え行れ候。此日、私、手本認ル。

(六月) 四日 酉 晴。

(六月) 五日 戌

(六月) 六日 亥

(六月) 七日 子

朝ヨリ、不言菴え帰り、竹の、赫の、稽古して帰り、八ツ時ヨリ九条殿え稽古ニ上り、夕方、帰殿。此日、江州勘五郎来り候。

(六月) 八日 丑

早朝、勘五郎、かつ女連れて江州え帰り候。

(六月) 九日 寅

(六月) 十日 卯

(六月) 十一日 辰

此日、私、二条え帰り一宿する。

(六月) 十二日 巳

竹の、赫の、稽古いたし候。昼後、帰殿。八ツ時より九条殿え稽古に上り、夕方、帰殿也。

夕、宮原先生御出、[講](#)聞。一宿致され候。

*[講](#)聞（[講](#)聞）

（六月） 十三日 午

此日、日暮ヨリ不言庵え帰り一宿、父さまも御泊り也。

（六月） 十四日 未 神事。

朝ヨリ御客さまの[こしらへ](#)にて大いそかしく候。此時、式部女来、[麦のや集](#)一冊くれられ候。昼前、寿部院さま成らせられ候。秀、菊、御供也。御渡り、昼前ニ相濟候。昼後、殿様成らせられ候。七ツ時後、御馬ニテ還御也。寿さま、日暮後、還御也。父さま、母さま、私、菊、八幡さまえ参詣して帰り候。みなく一宿。

*[こしらへ](#)（[拵](#)へ） *いそかしく（忙しく） *[麦のや集](#)（[麦の舎集](#)）

（六月） 十五日 申

朝、三人連ニて帰殿也。吉田さま御出、[講](#)聞。一宿致され候。

（六月） 十六日 酉

早朝、殿様御出門、七条え成らせられ候。御行かけ、二条え御寄せられ候。母事、昨夜急病ニテあしく、私呼に來、早々二条え行。急病は治り候。終日[かいほう](#)いたし、一宿する。
*[かいほう](#)（[介抱](#)）

（六月） 十七日 戌

竹の、赫の、稽古いたし候。昼後帰殿。八ツ時より九条殿（え）上り稽古、夕方、帰殿。夜、宮原先生御出、[講](#)聞。一宿。

*[講](#)聞（[講](#)聞）

（六月） 十八日 亥

早朝、先生帰られ候。

（六月） 十九日 子

（コノ日、記事ナシ）

（六月） 廿日 丑

千世滝さま、沢さまえ御暇乞ニ行れ候。帰り七ツ時也。殿様、沢殿え成らせられ候。夕、宮原先生御出、[講](#)聞。一宿致され候。

*[講](#)聞（[講](#)聞）

(六月) 廿一日 寅

朝ヨリ木せ川山水認ル。昼前、沢藤姫、元丸さま成らせられ候。此三日、長崎え御出立の御暇乞也。八ツ時頃、帰られ候。夕方、千代滝さま、私、御廟え参詣いたし候。

*木せ川(木瀬川)

(六月) 廿二日 卯

早朝、不言庵え帰り候。竹の子、赫の子、稽古して、早々帰殿。此日、仁和寺宮様越後え御出立、殿様も拝見ニ成らせられ候。私、御供いたし候。会津屋敷跡ニテ調練有、夫ヨリ御出立也。実にく見事く成物也。いさましき事也。昼後、還御也。私、八ツ時より九条殿え上り候。稽古。夕方、帰殿也。吉田さま不参也。

(六月) 廿三日 辰

朝ヨリ終日御書也。

(六月) 廿四日 巳

朝ヨリ扇子六本認ル。夫ヨリ写し物する。又御書也。

(六月) 廿五日 午

朝、父さま、千世滝さま、私、北野天神え参詣いたし候。帰りかけ梅林え寄、昼飯して帰り候。

(六月) 廿六日 未

朝ヨリ殿様御出門。御供迹見摂津、典膳、民部、主税、刑部、下部二人。伏見稻荷社え参詣有らせられ候。夫より宇治え成らせられ候。御昼飯万屋ニテ遣ひ、八ツ時後より御帰り也。御帰殿、日暮後也。

(六月) 廿七日 申

此日、私、所勞ニテ稽古止ル。昼後、御書也。

(六月) 廿八日 酉

此日八ツ時、奥田中務、関東より帰京いたし候テ参殿いたし候。暫ニテ勝蔵子も参殿。

*奥田中務(興田中務)

(六月) 廿九日 戌

殿様、関東三条殿、万里小路殿え御便り遊し候ニ付、御扇子送られ候。十本御認ニ相成、

私、画十本認ル。

(七月)

七月朔日 亥

此日八ツ時後、八尾慈願寺了海、門徒人連テ上り候。此日、殿様御馬御稽古也。対州藩上られ候。

(七月) 二日 子

朝、私、二条え帰り、稽古して帰り候。八尾人来、書画帖認ル。半切一枚ト也。昼後、九条殿え上り稽古して、夕方、帰り候。

(七月) 三日 丑

朝、対州人御馬御稽古ニ上り候。私、写し物いたし候。

(七月) 四日 寅

(七月) 五日 卯

朝、宗対馬守様御出、則御暇乞也。私、対面いたし候。

(七月) 六日 辰

此日、対州行の扇子甘本認ル。此朝、対藩田原広之進参殿、御馬稽古上ケ、済て、殿様御席書遊し、私も席書いたし候。

(七月) 七日 巳 雨、昼後止。

御祝もあらせられ候。殿様御参賀、朝也。昼後八ツ時より、殿様、対州屋敷御暇乞に成らせられ候。

(七月) 八日 午

私、少々不快放棄。夕方、私、典膳、兵部子、二条え行、外二人即帰り候。私一宿する。

(七月) 九日 未 晴。

終日養生する。夕方、典膳、山本呼に來、同道して帰り候。此日、宗対馬守様より私え硯石、金五百疋下され候。此日承り候押小路殿より岩倉え送られ候哥、

咲けはこそ嵐もさそふさそふとも花なき枝に散るよしもなし

(七月) 十日 申 晴。
朝ヨリ半切三枚認ル。

(七月) 十一日
(コノ日、記事ナシ)

(七月) 十二日
(コノ日、記事ナシ)

(七月) 十三日
此日、(以下記述ナシ)

(七月) 十四日
(コノ日、記事ナシ)

(七月) 十五日
御式もするく相済候。

(七月) 十六日
同、終日、遊ぶ。

(七月) 十七日
れん落花卉之図、絹地画帖物山水一枚認。
*れん落 (聯落)

(七月) 十八日
れん落花卉之図二枚、**れん落**書一枚。此夕、私、典膳、兵部、同道にて二条え帰り候。私一宿。外兩人帰られ候。
*れん落 (聯落) *れん落 (聯落)

(七月) 十九日
朝、帰殿いたし候。

(七月) 廿日
此日七ツ時、二条え帰り候。一宿。大坂行の**こしらへ**いたし候。

*こしらへ(拵へ)

(七月) 廿一日

早朝六ツ時、長七来、母さま同道ニテ大坂て下られ候。私、夫ヨリ帰殿いたし候。宮原よりの扇面認ニかゝる。昼時ヨリはらいたみ、八ツ時ヨリ益ひとく相成、霍乱也。夜通しあけつめ、真ニくるしみ候也。

*大坂て(大坂え) *はら(腹) *霍乱(霍乱) *あけつめ(上げ詰)

(七月) 廿二日

朝かたに至て少々よろしく候。

(七月) 廿三日

朝より御地藏祭り也。昼後九条殿え稽古二行、七ツ時、帰殿いたし候。此夜三更頃、長七大坂より帰殿候。

(七月) 廿四日

此日も御地藏祭り也。昼後御供養遊し候。夜一更二相濟候。私、此日、扇面極彩色草花認上ル。兵部子、早朝より大坂え下られ候。此夜二更、地震。

(七月) 廿五日

朝、典膳子二条え行、宮原え扇面相渡し候。殿様御ねつニてあしく、田中上り候。殿様よほど重く申居り候。此夜、御ねつひとくあらせられ候て心配いたし候。岩倉やす来、一宿。

*御ねつ(御熱) *御ねつ(御熱)

(七月) 廿六日

殿様少々およろしくあらせられ候。終日御かいほう申上候。

*御かいほう(御介抱)

(七月) 廿七日

朝ヨリ私二条え帰り候。竹の、赫の、稽古致し、昼前、帰り候。昼後二九条殿え上り、稽古して夕方帰殿也。

(七月) 廿八日

終日放業。此日大坂井徳、山勘、河内屋参殿。

(七月) 廿九日

終日放業。石田信堂参殿。

(八月)

八月朔日 雨。

御式もするく相済候。

(八月) 二日 雨。

朝、二条え帰り、竹の稽古して、昼後、帰殿。夫ヨリ九条殿え上り、夕方帰殿候。

(八月) 三日 雨。

画帖認ル。夜四更迄読書。此日、石田信堂帰坂いたし候。

(八月) 四日 雨。

少々所勞ニテ放業。此日、心淨院様御年忌ニ付、御上、次一統、大徳寺え参詣遊し候。よし姫さま、私、ひて、留主預り候。

(八月) 五日 雨。

終日、画帖認ル。夜、詩作。

(八月) 六日 晴。

昼時ヨリ、沢様え行、夫ヨリ、日根野え行、暫遊ぶ。夫ヨリ、岡崎伏田え行、夕方、帰殿。夜、詩作。

(八月) 七日 晴。

朝ヨリ二条え帰り、竹の、赫の、稽古いたし候。昼後帰殿。六蔵子連れて帰り候。七ツ時豊女迎ひに來り、夜吉田氏参殿、講訳聞、一宿致され候。大坂母さまより文着。

*講訳(講釈)

(八月) 八日 晴。

朝、読書。吉田氏帰られ候。昼後御書上ル。作函。大坂母さまえ文出。夜二更迄詩作。

(八月) 九日 晴。

朝、七ツ起ニテ五ツ前殿様、良姫様、万里小路様え行幸拝見ニ成らせられ候。私、此日半切一枚認ル。八ツ時ヨリ蓮様成らせられ候テ御供いたし候。七ツ時、御還幸也。早々帰殿

也。

(八月) 十日 晴。

朝ヨリ読書。昼より御書上ル。八ツ時より画半切自画讚物認ル。夜三更(迄)詩作。

(八月) 十一日 晴。

朝ヨリ読書。昼より御書上ル。夜三更迄詩作。

(八月) 十二日 雨。

朝、二条え帰り竹の子稽古して、昼時帰殿、御書上ル。八ツ時より九条殿稽古日ニテ参殿、日暮て後、帰殿。此日、石田信堂参殿、一宿。夜、吉田さま御出、講訳聞、一宿。此夜より典膳事、腰痛ひとく相成候。一寸も動く事出来不申、大困り。夜四更二臥。

*講訳(講釈)

(八月) 十三日

朝、読書。昼後、御書。絹地大幅御認ニ相成候。神堂、此日より病院え出勤いたし候。夜、詩作、三更。此日、典膳同断、痛つめ。

*痛つめ(いたみ詰)

(八月) 十四日

朝読書。昼後、御書。私、九条殿よりの扇子六本認ル。典膳痛益ひとく相成候。此夜、民部、兵部、村松氏え行、あたゝめ薬の相談いたし、早々右温いたし候。少々よろしき様子也。

*あたゝめ薬(温め薬)

(八月) 十五日

典膳、日々病いたみ重く相成候。朝ヨリ父様、私二人連ニテ古梅円ニテ印財もとめ、夫ヨリ鳩居堂え寄、又印財もとめ、此時、桜井雲心居られ、暫咄して、夫ヨリ四条寺町え寄、又村松え行。此時、吉田氏も居られ候。此朝、村松、典膳見舞に参殿致され候故、礼ニ行候也。夫ヨリ、宮原え行、印財鷹堂方え彫頼み置候。夫ヨリ帰殿いたし候。七ツ時也。此七ツ時ヨリ雨、無月。此朝、江州勝蔵子、一寸来り候。

*古梅円(古梅園) *印財(印材) *印財(印材) *印財(印材)

(八月) 十六日 晴。

朝、兵部子国元え帰られ候。典膳同断重く相成、日夜かいほういたし候。夜通ス。

*かいほう(介抱)

(八月) 十七日

此日、私、腹痛ニテ臥。稽古日放業。

(八月) 十八日

此日、腹痛ニテあしく候。典膳、一寸も動く事出来不申、心配いたし候。

(八月) 十九日

私、此日、全快ニ及候。

(八月) 廿日

朝、母さま大坂より帰られ参殿致され候。私、短冊十枚認。夜通かいほういたし候。

*かいほう(介抱)

(八月) 廿一日

朝ヨリ蓮さまの御はた彩色いたし候。

*御はた(御旗)

(八月) 廿二日

朝、六ツ起ニテ父様下坂致され候。寅吉供也。私、朝、二条え帰り候。竹の、赫の、稽古致し、昼後、吉田え行。殿様御印出来ニテ持帰り候。八ツ時ヨリ九条殿え上り、稽古致し候。六ツ時、帰殿候。

(八月) 廿三日

御はた、終日認ル。母さま、此日、漸、二条え帰られ候。此日、楚山先生より文来。

*はた(旗)

(八月) 廿四日 雨。

昼後より天神宮参詣いたし候つもりにて出かけ候処、大雨ニテ止ル。此夜九ツ時、兵部子国ヨリ帰られ候。

(八月) 廿五日 晴。

朝、千世滝さまト同道ニテ天神宮え参詣いたし候。帰殿五ツ過也。夫ヨリ御書上ル。此日昼後、馬来り候。此日、大坂父様、楚山、文出ス。小画帖、半切、馬認ル。夜、詩作、四更二臥。

(八月) 廿六日

朝五ツ時、父さま、大坂より帰殿致され候。私、半切一枚四友之図認ル。八ツ時より御書上ル。夜二更迄詩作。

(八月) 廿七日

六ツ起御所御即位ニテ、殿様御参賀あらせられ候。私、縫物、昼迄スル。昼後、吉田氏へ行、印頼置、亦二条へ行、暫して亦九条殿へ行、稽古して夕方帰殿。夜、詩作四更二至。

(八月) 廿八日

朝、読書。昼時より御書上ル、七ツ時迄。夫より画帖二枚認ル。夕、母さま参殿、一宿。夜四更迄。

(八月) 廿九日

朝、読書。昼時より御書、八ツ時迄。夫より半切一枚、四愛図画帖二枚認ル。夜、山陵行幸御還行拝見二行。一更半二相済候。夜四更迄。此夜四更半、白川辺出火、暫時して沈。

*御還行(御還幸) *沈(鎮)

(八月) 三十日

朝ヨリ読書、至昼。夫より御書上ル、七ツ時迄。夫より作図、夜四更迄同断。

(九月)

九月朔日

四ツ時より七条前田へ行、奴連て也。昼後、興正寺、殿様成らせられ候。私も参り候刻、御席書、亦私も書画認ル。大門様、新川様、書画御認ニ相成。此時、三国幽眠、藪之内も居られ候。夕方迄大はつみ、実にもしろき事也。殿様、夕方より御帰殿也。私、跡え残り、亦大はつみ也。一更二私帰り候。夫ヨリ岡方迄行、暫して前田え帰り一宿。

*跡(後) *大はつみ(大弾み)

(九月) 二日

朝、長七迎ひに来り候。夫ヨリ帰り候。帰殿、昼少々前也。昼後、式部女参殿。私、式部連て九条殿え上り候。此日、始て式部女参殿いたし候。私と式部合作、七ツ時過、夕方二済、兩人共帰り候。此日、吉田さま、益齋と参殿致され候。大服印押に来り一更二帰られ候。

(九月) 三日
朝、読書。此日、短冊五枚認ル。夜、風邪ニテ放業。夜、白川出火也。

(九月) 四日
風邪ニテ放業。夜、短冊十五枚認ル。

(九月) 五日
朝、七ツ前より起、詩作、亦読書。

(九月) 六日
風邪ニテ朝寐する。短冊五枚写。夜、放業。夜田中村出火。

(九月) 七日
朝、二条え帰、稽古。昼後、御書。夜、詩作。

(九月) 八日 (明治ト改元)
此日、半切一枚認。夜、詩作。

(九月) 九日
半切一枚認ル。御祝もする。御濟候。夜、放業。

(九月) 十日
朝、読書。夜、輪講、詩作。

(九月) 十一日
朝、読書。昼時より父さまト同道、対山人え行、暫咄して、父さま、石山殿え上られ候。私、伏田え行、夫より亦石山殿え上り候。夕方迄。日暮ニ帰殿候。夜、詩作。

(九月) 十二日
朝、二条え帰り、稽古して、昼後九条殿え参り稽古。日暮、帰殿候。夕、吉田さま参殿、一宿。講訳聞、又詩作。
*講訳(講釈)

(九月) 十三日
朝、法帖認。

(九月) 十四日

朝ヨリ摸写。此七ツ時前、正五位下被蒙宣下畢。御所え殿様御参り、夫より方々え御礼廻りに成らせられ候。夕方、御帰殿也。御祝酒。一更後あやしき人忍入、御内大騒動也。七ツ時臥。

(九月) 十五日

朝、殿様御出門。岩倉神事にて成らせられ候。最、御馬也。表一統御供也。御姫さま方、成らせられ候はつ^{はつ}の処、又々御止ニ相成候也。扇子六本、外書画。夜、詩作、至四更。
*最(尤) *はつ(筈)

(九月) 十六日

朝、御書上ル。又扇子五本画。夜、詩作、至三更。此日、式部女参殿。半切渡ス。

(九月) 十七日

朝、扇子十本画ス。夫より二条え帰、両女子稽古。帰殿後、九条殿え上り稽古、夕方済。此時、吉田参殿、講訳聞。一更後済。夫より詩作。

*講訳(講釈)

(九月) 十八日

朝ヨリ御書上ル。昼後作函。夜、詩作ス。

(九月) 十九日

朝、対山人え行、暫、画之相談。八ツ後ニ帰殿候。夫より絹地及揮毫候。夜、詩作。

(九月) 廿日

辰之刻、御上東京行幸ニテ、殿様、朝七ツ下り、御所御参りあらせられ候。巳刻、御退室。夫より扇子十本御書也。私、夜、扇子十本認ル。夜、詩作。

(九月) 廿一日

此朝、絹地御書御認ニ相成候。父さま、毛利淡路守様え御いとま^{いとま}に行れ候処、御出立の後也。私、此日、絹地万山疊翠認ル。夜、詩作。

*御いとま(御暇)

(九月) 廿二日

朝、一寸、二条え帰り候。此日、長生節ニテ放稽古。絹地落製して早々宮原迄差出し候。双林寺展観ニ出ス。殿様、此夜、おね^{おね}つ^つにてひとくおわるく候。心配いたし候。

父さま、此日、大坂え下られ候。三郎子連て也。
*おねつ(お熱)

(九月) 廿三日
殿様、此日は御所勞御よろしく候。

(九月) 廿四日
八ツ時より御庭の楓見にて諸先生御招遊し候。宮原謙蔵、伊藤軍八、吉田泰蔵、宮原兵太郎、耕雲、日根野熊太郎、金三郎也。詩会、夜二更迄。実に面白き事也。

(九月) 廿五日
昼後より北野え参詣いたし候。七ツ時、帰殿いたし候。夜、詩作読書。此日、典膳、兵部子、西ノ京え行、三更ニ帰殿。暫して下加茂出火。

(九月) 廿六日
朝、扇子五本認ル。夜、詩作。

(九月) 廿七日
朝、二条え行、両女子稽古ス。宮先生御出にて聯珠詩格講訳聞、帰り、九条殿え上り御稽古上ル。日暮て帰り候。吉田さま御出にて講訳聞、一宿致され候。

*講訳(講釈) *講訳(講釈)

(九月) 廿八日
朝ヨ(リ) 写し物いたし候。此日、大坂え便する。夜、詩作読書。

(九月) 廿九日
写し物、書画帖認。夜、詩作。

(十月)
十月朔日
放業。大坂父様より便有。早速又父様え文出ス。

(十月) 二日
朝、二条え帰り、赫の子稽古ス。帰り、昼後、九条殿え上り、稽古いたし候。七ツ下り、

帰殿。此日、大坂辻氏ヨリ文来。九月十九日出也。

(十月) 三日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 四日

写し物ス。

(十月) 五日

昼前ヨリ二条え帰り候。宮原え行。宮先生、御殿え御稽古に上り候処、老人故御断申上度由ニテ、私、今一度御使ニ行、推て相頼候処、承知致され、今迄ハ五十ノ夜参られ候処、一六ノ朝ト相定り候。右のよしニテ、私、早々帰殿いたし候。昼後、御書、夕方迄。此日、大坂父様え文出ス。此夕、月近星也。 [図] 如此星三ツあらわれ候。

(十月) 六日

昼後、宮先生参殿。講訳聞、八ツ後、帰られ候。夫より写し物。私、宵寐の番也。三更より起、詩作、読書。

*講訳(講釈)

(十月) 七日

朝、二条え帰り候。赫の子稽古スル。宮原え行、講訳聞。阿州人来、暫咄ス。昼後帰殿、亦九条殿え稽古ニ上り、日暮て帰殿ス。此日、大学寮御輪読。殿様、甲御取遊し候。

*講訳(講釈)

(十月) 八日

此日昼前、父さま大坂より帰殿。私、昼後より対山方え行、夫より石山様え御書、父さま土産物持参する。夫より伏田え留主中見舞ニ行、暫遊ふ。七ツ時、殿え帰ル。

(十月) 九日

朝、読書。昼後亦読書。夜、詩作。

(十月) 十日

朝、読書。昼後より父様、私、雪女連て下辺え買物ニ行、七ツ時帰殿ス。夜、詩作。

(十月) 十一日

朝、読書。昼時宮先生参殿、講訳聞。

*講訳（講釈）

（十月） 十二日

朝、二条え帰り、宮先生講訳聞、竹の、赫の、稽古ス。帰殿後九条殿え上り稽古ス。日暮、帰殿。此日、殿様、漢学所輪読、又上御取遊し候。

*講訳（講釈）

（十月） 十三日

此朝、読書、又画帖認ル。夜、読書。

（十月） 十四日

朝、読書。昼後、読書。夜、読書、四更迄。

（十月） 十五日

御蔵附の御祝也。昼後、大職官様の御買物に、ひて女、市松連て行。七ツ時、帰殿。夜、読書、四更迄。

*大職官様（大織冠様）

（十月） 十六日

大職官様の御神事、私、次にて八ツ時迄君様方ニ居り候。園殿、出雲寺、参殿致され候。八ツ半ニ御神事解、又御祝也。夜、読書、詩作、五更也。

*大職官様（大織冠様）

（十月） 十七日

朝、読書。五ツ時より二条え帰り、竹の、赫の、稽古いたし、宮原先生え行、講訳聞。昼過、帰殿、又読書、画帖認ル。夜、吉田様参殿、講訳聞、一宿。夜、三更迄咄ス。

*講訳（講釈） *講訳（講釈）

（十月） 十八日

朝、読書。朝、吉田様帰られ候。昼時より、私、九条殿え上り稽古ス。日暮て帰殿。夜、読書。岩倉市女来、一宿。五更二臥。

（十月） 十九日

朝、読書。昼後、殿様御書也、日暮迄。夜、読書、写し物三更迄。

（十月） 廿日

朝、読書。昼後、日暮迄読書。此日、高橋左門参殿ニテ、暫咄し候。昼後帰られ候。夜、写し物四更二至。

(十月) 廿一日

此日昼前、宮原先生参殿、聞講釈。八ツ時後ニ相濟帰られ候。夜、写し物四更迄。

*講釈(講釈)

(十月) 廿二日

此日、稽古休。昼時より父さま同道ニテ専徳寺報恩講ニ参り、夕方帰殿候也。夜、写し物三更迄。

(十月) 廿三日

細物三枚、扇面十枚認ル。夜、写し物、二更ニ、臥。

(十月) 廿四日

写し物、読書。夜、写し物。大坂瓦屋町竜二郎参殿。

(十月) 廿五日

朝、読書。昼前より父さま同道ニテ北野え参詣いたし、西ノ京阿弥陀寺え行、暫咄して、七ツ時帰殿いたし候。夜、写し物四更迄。

(十月) 廿六日

朝、読書。此時、石山様成らせられ候。昼時、宮先生参殿、講釈聞、七ツ時前済。夜、写し物、五更天。

*講釈(講釈) *五更(天(ママ))

(十月) 廿七日

朝、二条え行、宮原ニテ講釈聞、昼時帰り、九条殿え稽古ニ上り、日暮て帰殿。此時、吉田さま御上りにて講釈聞、一宿致され候。

*講釈(講釈) *講釈(講釈)

(十月) 廿八日

朝、読書。放業。朝、父さま、兵部子、主税子連て御室皆明寺(え)行れ候。日暮て帰殿。

(十月) 廿九日

昼時より、父様、千世滝さま、私、三人連て七条前田え行、一更ニ帰殿いたし候。此朝、

阿弥陀寺参殿也。

(十月) 三十日

朝、読書。殿様、漢学所え成らせられ候。昼時、御帰殿也。又読書。夜四更迄詩作。

(十一月)

十一月朔日

巳刻ヨリ殿様御出門。祇園え御参也。八ツ時後、万里小路殿え成らせられ、七ツ時御帰殿也。此時、宮原先生参殿、早々帰られ候。夜、読書、小絹地四季花卉横物一枚認ル。

(十一月) 二日

朝、二条え行、赫の子稽古して、昼時帰殿。夫ヨリ九条殿え上り、稽古して、夕かた帰殿候。此日、宮原若先生一周忌にて御祭りいたし候。夜、吉田様参殿、**講釈聞**。

*講釈(講釈)

(十一月) 三日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 四日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 五日

此日より私、二条え帰り候。報恩講の**こしらへ**にて候。父さま、兵部さま、刑部子も来られ候。父さま、私一宿。

*こしらへ(拵へ)

(十一月) 六日

朝、殿様成らせられ候。暫して、よし姫様成らせられ候。千世滝さま、きく、ひて御供也。表一統、七条前田、みつ、伊藤三晋、専徳寺役僧来候。夕方後、殿様、よし姫様還御也。私、御供いたし候。此日岡崎おあさ女来られ候て、由姫様御供して参殿致され候。

(十一月) 七日

私、此日、所勞にて放業。あさ女滞留。此夕吉田さま参殿、**講釈聞**、**論講**、四ツ後済、一宿致され候。

*講訳（講釈） *論講（輪講）

（十一月） 八日

八ツ時、伏田秀領さま御迎ひに來られ候て、あさ女帰られ候。此日、殿様、朝、漢字所え成らせられ候。御還早々伏見稻荷え御参也。御供表一統、三郎。刑部子、御留主番也。大炊御門様、平松様、皆々騎馬也。七ツ前に還御也。

*伏田秀領さま（伏田秀嶺さま）

（十一月） 九日

八ツ時後、宮原先生参殿、講訳聞、夕方濟、帰られ候。此夜八ツ時ヨリ四条芝居え行候。寿さま、父さま、私、兵部子也。

*講訳（講釈）

（十一月） 十日

此夜一更半ニ果ル。帰殿致候。

（十一月） 十一日

九条様法帖認ル。

（十一月） 十二日

朝読書。濟テ二条え行、竹の、赫の、稽古して帰り、九条殿え上り稽古上ル。日暮て帰殿也。吉田さま参殿、講訳、輪講、四ツ時下り濟、一宿致され候。

*講訳（講釈）

（十一月） 十三日

朝読書。昼後御書、日暮迄。夜、読書。

（十一月） 十四日

朝読書。昼後読書。八ツ半宮原先生参殿、講訳聞、日暮て帰られ候。此日式部女参殿、御書願候。此日二条え木津尾上長兵衛來り候。吉井文堂、奥州ヨリ帰参致し候。夜、詩作、五更也。

*講訳（講釈）

（十一月） 十五日

朝読書。殿様漢字所え成らせられ、七ツ時還御也。夜、詩作也。此朝、典膳、兵部子、大坂え下り候。外に若州の人も連て行、又木津尾上長兵衛、外二人、皆々同道也。

(十一月) 十六日

朝ヨリ九条殿たんさく、扇面認ル。

*たんさく(短冊)

(十一月) 十七日

私、少々所勞ニテ稽古放。夜、吉田さま御上りニテ講訳聞、又輪講ス。一宿致され候。私、四更迄書見。

*講訳(講釈)

(十一月) 十八日

朝、吉田さま帰られ候。

(十一月) 十九日

朝、読書。昼後、宮先生御上りニテ講訳聞、七ツ下り帰られ候。夜四更二臥。

*講訳(講釈)

(十一月) 廿日

朝より半切一枚認ル。昼時ヨリ沢さまえ上り候て、一宿する。

(十一月) 廿一日

昼飯戴候て帰殿いたし候。

(十一月) 廿二日

朝、二条え帰り、竹の女稽古いたし、私、宮原ニテ講訳聞、夫ヨリ帰り、昼後九条殿え上り、稽古して、夕方帰殿也。夜吉田さま参殿。講訳、輪講、一宿致され候。

*講訳(講釈) *講訳(講釈)

(十一月) 廿三日

朝読書。昼後御書也。

(十一月) 廿四日

朝読書。昼後宮原先生参殿也。講訳聞。夕方、帰られ候。此日、吉井文堂、順藏参殿いたし候。夜読書。

*講訳(講釈)

(十一月) 廿五日

昼後北野社へ参詣いたし、七ツ時帰殿いたし候。此日、有栖川宮様御帰り也。此夜四ツ時より四条芝居へ行。

(十一月) 廿六日

八ツ時、果ル。夫ヨリ大手饅頭ニテ会席食て、暫して夕方帰殿也。

(十一月) 廿七日

朝、読書。夫ヨリ二条へ行、赫ノ子、竹の子、稽古して、昼後に九条殿へ行。夜、吉田さま参殿、**講訳**、一宿。

*講訳(講釈)

(十一月) 廿八日

九条殿よりの半せつ物認ル。二枚。父さま六条へ行れ候。民部、礪崎、主税、三郎子同道也。

(十一月) 廿九日

昼後、宮原先生参殿、**講訳**聞。夕方、帰られ候。

*講訳(講釈)

(十一月三十日、日記ナシ)

(十二月)

十二月朔日

此日、石山様の菊姫さま成らせられ候て御滞留也。夜三更迄読書也。

(十二月) 二日

朝より二条え帰り、宮原ニて**講訳**聞、帰り、竹の子稽古して帰り候。昨日、吉井順蔵帰坂いたし候也。昼後、九条殿え参殿して稽古スル。夕方、帰殿。此夜、吉田さま参殿。**講訳**聞。一宿。

*講訳(講釈) *講訳(講釈)

(十二月) 三日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 四日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 五日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 六日

此日、吉田、安楽寺尼参殿也。夜、読書、三更迄。

(十二月) 七日

朝二条え帰り、宮原にて講釈聞、竹の、赫の子、稽古して帰られ候。此日、九条殿、九条村え御引移りにて休。此日、石山様、まき姫さま成らせられ候て御一宿也。夜五更迄読書也。吉田さま所勞にて不参也。

*講釈(講釈)

(十二月) 八日

扇面認ル。石山様、御姫様、二方共御帰殿あらせられ候。夜、読書。

(十二月) 九日

扇面認ル。此日、昼後宮原先生参殿。講釈聞。夜、読書。

*講釈(講釈)

(十二月) 十日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 十一日

御すゝにてさわき候。昼後に相濟候。夕方、御祝也。

*御すゝ(御煤) *さわき(騒ぎ)

(十二月) 十二日

朝、二条え帰り、竹の、赫の子、稽古いたし候て、昼時帰殿いたし候。法帖認ル。夜、吉田先生参殿、講釈聞。一宿致され候。

*講釈(講釈)

(十二月) 十三日

(コノ日、記事ナシ)

(十二月) 十四日

朝ヨリ九条村九条様え上り候。三郎子ト同道也。早々三郎子帰られ候。私、御稽古上ル。一宿。

(十二月) 十五日

昼前、帰殿いたし候。此日、石山養姫さま成らせられ候。昼後より少々雪。夜に至て三寸計雪。

*石山養姫さま(石山卷姫さま)

(十二月) 十六日

此朝、大宮様、九条殿え成らせられ候。此日、まき姫さま、女御様え御目見遊し候て、夕方御帰殿也。夜読書。此日、沢三位様奥州より御帰り也。夫二付、殿様、朝より沢様え成らせられ候。夜二至て御帰殿也。

(十二月) 十七日

朝、私、二条え帰り、竹の、赫の子、稽古いたし、昼時帰殿いたし候。夜、吉田さま参殿。講訳聞、済て読書、徹夜いたし候。此日、石山様、まき姫さま御帰り也。

*講訳(講釈)

(十二月) 十八日

朝ヨリ扇面認ル。夜、読書。

(十二月) 十九日

朝ヨリ扇面認ル。夜、読書。

(十二月) 廿日

半切二枚認ル。夜、読書五更迄。

(十二月) 廿一日 雨。

絹地堅物蓬萊山認ル。夜、読書。

(十二月) 廿二日 晴。

五ツ時後、風早殿え蓮さま、清さま、良さま成らせられ候。私、御供いたし候。四ツ時、御上、東京より御還行也。昼時、みなくさま御帰殿也。夕、節分御祝也。

*御還行（御還幸）

（十二月） 廿三日 晴。

朝より御書也。四ツ半刻ヨリ殿様、泉涌寺え御参り也。七ツ時、御帰殿也。夜、読書。此日、大坂辻氏より文来候。

（十二月） 廿四日

此日、昼後より千世滝さまト松ト同道にて沢殿え行れ、私、対山え病氣見舞ニ行、夫より式部方え行、又沢様え行、いろく奥羽戦走の咄し承り候。此日、雨中にて、一宿いたし候。

*戦走（戦争）

（十二月） 廿五日

早朝、帰殿いたし候。夜四ツ時ヨリかちんつき也。

（十二月） 廿六日

此日、八ツ時後に、かちんつき相濟候。此日、石山卷姫さま成らせられ候。女御さまえ御上りにて、仕立ニテ夜通しいたし候。

（十二月） 廿七日

昼後、女御さまえ御上り也。

（十二月） 廿八日

此日、女御さま御時代也。一寸拝見ニ行候。此夜、私、二条え帰り一宿。

*時代（入内）

（十二月） 廿九日

此日、二条より帰殿いたし候。母さまも参殿致され候。